



## 遊びの本質と重要性



今月、わたし達は「福島で『外で遊べる日常』を子どもたちに取り戻したい。子どもの居場所プロジェクト」というタイトルでクラウドファンディングに挑戦しています。原発事故から15年。福島市信夫山のご自宅の敷地を子ども達に開放したいという方からお声がけいただき、福島での子どもの居場所づくりを野外保育の視点から整えるための費用を捻出するためです。

なぜ「野外」なのか。そして、「遊び」とはなんなのか。最近出会い読み始めた『遊びの力で学校を変えるーフクワクがあふれる休み時間のつくり方』から「遊びの本質を表す3つの原則」をひも解いてみたいと思います。

### ◇自主性

遊びとは、仕事ではなく、スポーツのように決まったルールがあるわけでもなく、強制されて行うものでもありません。ということは、年齢に関わらず、「遊びは他人からの指示が途絶えたときにすること」とだと言えるかもしれません。この定義が捉えているのは、個人の選択と自主性という概念であり、その定義があるからこそ子どもたちは遊びの場面で当事者として振る舞うことができます。

大人は子どもたちが遊びの中で何をしているのか的確に理解しようと四苦八苦します。そのために大人は「もっと目的を持って遊んでほしい」「もっと生産的に」「意味のあるものに」などと言ってしまっ

た。大人は、子どもが遊びを通して既成の学習目標に到達することをのぞんだり、そこで繰り広げられてい

る遊びの中に学びや成長の種を見つけ出したりしようとしています。そうすることで大人は、今、目の前で起こっていることを遊びとは違うものにしてしまいます。大人は、自分の存在や行動が子どもの遊びのプロセスに与える影響をしっかりと自覚しなければなりません。

介入が多いほど、その活動が遊びであり続ける可能性は低くなります。大人は子どもたちに主導権を渡すタイミングのできる限り早く気づくべきなのです。

### ◇内発的動機付け

遊びに対する内発的動機付けはすべての子どもに備わっています。人間は生まれながらに遊び心を持って世界を探索しようとする本能を持っています。子どもたちが他人や自分を傷つける、物を壊す、わ

がままや失礼な態度をとるなど、大人を悩ませるような行動をするとき、彼らは自分の周りにあるすべての境界線を探索したいという自然な衝動に駆られているのです。

経験とは主観的なものです。つまり子どもたちは、自分で自分のデータを収集するという自分自身への「諜報活動」が必要なのです。子どもには経験を収集する本能があります。楽しい経験や不快な経験、面白いことやそうでないこともあります。すべての経験には意味があります。自分自身の方向性や興味、活動に基づいて収集された経験こそ、将来的な学びや成長発達に最も役立ち、最も意味を持つのです。

### ◇自由な選択

遊びには自由な選択が欠かせません。つまり、いつ、どこで、誰と、どれだけ、何を使って遊ぶかを自由に選

ぶことができるということです。

自由な選択という原則は、子どもの遊びについて大人が意思決定する際に最も重視すべき指針のひとつであり、可能な限りこれを認めることを前提とするべきです。

子どもたちがさまざまな社会的なスキルや自分の能力、手段などを試してみ、自由に成功したり失敗したりできるのは、遊びの中だけなのです。

わたしはこれらの原則を読んで、果たしてわたしは子どもたちにそうしてあげていたのかなと自問自答しました。出来ていないことが多かったと思います。遊びの本質を理解し、子どもたちの世界を広げていたらと切に思いました。

それは野外だからこそできることが多いのではないのでしょうか。室内遊びは往々にして壊してはいけないものが多いです。土を掘り、草花や木で遊ぶとき、子どもの可能性が広がっていくと感じています。

辺見妙子

自分の腕を砂に埋めたのを見て欲しい年長さん

